

B分科会 管理職のための財務の見方

講師：横山 昇一 氏 / 家坂 友幸 氏
運営委員 1・3日目：新保芳夫／藤野富士夫／秋元雅則／山本博幸／土門久美子
2日目：池田 徹／長岡寛治／小林啓延／公江 茂／土門久美子

このテーマは設定2年目の分科会で、33名の申し込みがありました。参加者は、財政・会計などの担当が主で、現職に携わった期間が1年未満から24年までの幅広い層でした。1年以下の方が40%を占め、次いで2年～5年が30%でした。学内職名では、理事長クラスから主任以下クラスまで、年数や立場などそれぞれ異なった層の方が集まり、財務分析の基礎知識と分析を学びました。講師には、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターの主幹 横山昇一氏と副主幹 家坂友幸氏にお願いし、スクール形式で行いました。冊子資料と当日配布資料を使い、演習も織り混ぜて進めていただきました。

第1日目：初日は会計全般について具体的に詳細な説明を受けました。財務状況を把握することが、学校法人を見つめ直し、将来の方向性を決めるために必要であることを学びました。説明後には、おさらいとして会計基準における文言の意味を理解できているかの問題も用意されており、自分の理解度も知ることができました。また、財務三表を使って具体的に家計の数字に置き換えてわかりやすい事例で演習を行いました。

- ①なぜ会計や財務の知識が必要か。 ②学校法人会計（演習含む）
- ③資金収支計算書 ④消費収支計算書 ⑤貸借対照表 ⑥基本金
- ⑦消費収支計算書と貸借対照表のつながり（演習問題）
- ⑧資金収支計算書と消費収支計算書・貸借対照表のつながり（演習含む）

第2日目：経営分析の一項目として定性的な分析を行う「SWOT分析」を各自の学校法人に照らして実際に行いました。学内外の環境要因等における強みや弱み、機会や脅威を分析することによって、今後の取り組みとその分析を行う手法を学びました。財務分析の財務比率についても自学の決算書を使い比率をだし、数字の表す意味を学びました。

- ①経営分析、財務分析とは ②SWOT分析（演習）
- ③財務比率（消費収支関係） ④財務比率（貸借対照表）

第3日目：経営判断指標を21年度・22年度の自学の決算書でCFを求め、経営状態がどの区分に位置するか判定しました。またPDCAサイクル：計画→実行→点検→改善の内容の一例を参考として取り上げ説明がありました。

- ①経営判断指標 ②PDCAサイクル

この3日間の分科会では、講義とそれを受けての演習問題や具体的な数字から学校の状況を読み取る力をつけていただき有意義な会となりました。参加者の方々の今後の活躍に期待します。終始立ったまま私学の財務分析の重要性を、分かりやすく丁寧にかみ砕いて説明してくださった講師の横山氏・家坂氏に心より感謝申し上げます。